

『Biogenic Trace Gas Workshop in Japan』

開催日：2008年11月27日午後1時～11月28日午前

開催場所：静岡県立大学環境科学研究所1階大講義室

主催：Biogenic Trace Gas Workshop in Japan 実行委員会

共催：静岡県立大学環境科学研究所

協賛：大気環境学会植物分科会

プログラム（予定）

1 日目

13:00 開会挨拶 谷 晃（静岡県立大学環境科学研究所）

13:05 環境科学研究所長挨拶 岩堀 恵祐（静岡県立大学環境科学研究所長）

13:10 基調講演 横内 陽子（国立環境研究所）

『植物起源微量ガス研究の30年の変遷』

一般講演

放出特性：テルペン類

14:00 野副 晋（財団法人 環境科学技術研究所）

『アカマツの森林におけるモノテルペン高度分布とフラックス』

14:20 中川健太，奥村 智恵（京都大学大学院）〔ショート〕

『コナラ群落からのイソプレンフラックス測定』

14:35 斉藤 拓也（国立環境研究所）

『東南アジア熱帯林から放出される塩化メチルとイソプレン』

14:55 屋 宏典（琉球大学）

『熱帯樹木ハマイヌビワのためのG93イソプレン放出モデルの改変』

15:15～15:25 休憩

放出特性：ハロカーボン，その他（メタンを除く）

15:25 米村 正一郎（農業環境技術研究所）

『生態系への非GHG吸収と葉を含む有機体からの光酸化によるガス発生』

15:45 橋本 伸哉（静岡県立大学環境科学研究所）

『海洋植物プランクトンによる微量ガスの生成』

16:05 須藤重人（農業環境技術研究所）

『水田から発生するハロゲン化メチル』

16:25 松永 壮（JPEC）

『機能性BVOCの放出とその特徴』

16:45～16:55 休憩

環境ストレスと放出

16:55 近藤 明（大阪大学）

『オゾン暴露による樹木からの BVOC 排出量の変化』

17:15 大野 卓夫 (静岡県立大学大学院) [ショート]

『長期オゾン暴露がコナラとヒノキからのテルペン類放出におよぼす影響』

17:30 青木正敏 (東京農工大学)

『VOC とオゾンによって生成した大気中超微量過酸化物の植物と昆虫に及ぼす毒性影響』

17:50 矢崎 一史 (京都大学生存圏研究所) 特別講演 (30分)

『イソブレン合成酵素導入シロイヌナズナとその高温ストレス耐性』

19:00~ 懇親会 (静岡県立大学食堂)

2日目

放出特性 : メタン

9:30 深山 貴文, 小南 裕志 (森林総合研究所関西支所)

『京都府南部の非湿地林におけるメタン放出源の検討』

9:50 植山雅仁 (大阪府立大学)

『簡易渦集積法により高精度にフラックスを測定するために』

10:10 西村渉 (大阪府立大学) [ショート]

『森林におけるメタンフラックスの連続観測』

BVOC 研究の新展開

10:25 高山 弘太郎 (愛媛大学農学部)

『施設園芸における栽培管理のための VOCs モニタリングによる植物診断』

10:45~10:55 休憩

10:55 谷 晃 (静岡県立大学環境科学研究所)

『リアルタイム VOC 測定法によりわかった BVOC の放出特性』

11:15 杉浦瑞枝 (静岡県立大学)

『レモンマートル由来モノテルペン合成酵素と機能解明』

テルペン類放出種の同定とインベントリ作成

11:35 佐藤 絵理 (静岡県立大学大学院) [ショート]

『水田で栽培されるイネからテルペン類は放出されるか?』

11:50 奥村 智憲 (京都大学)

『関西地域における植物起源 BVOC 放出量の推定』

12:10 閉会の挨拶